2020（令和2）年12月

ピース・ウイング長崎 会報 へいわ

168号

公益財団法人 長崎平和推進協会
https://www.peace-wing-n.or.jp

■核兵器禁止条約 50ヵ国・地域が批准
■全国×長崎 青少年ピースフォーラム　オンラインでの開催
■米国×日本 高校生らによるオンラインセミナー
■私たちデビューしました！
■被爆体験の深化講座　■被爆者証言ビデオ
■国連軍縮週間 市民のつどい　■家族・交流証言事業研修会
■原爆展のお知らせ　■来訪者コーナー
■TOPICS！（長崎市社会福祉協議会から表彰　ほか）

長崎市役所前に設置された、核兵器禁止条約発効までのカウントダウンボード点灯式
（写真提供：長崎市広報広聴課）

右：カウントダウンボード点灯式（写真提供:長崎市広報広聴課）
左上：発効決定を喜ぶ被爆者らによる集会の様子　左下：原爆資料館に設置された横断幕

核兵器禁止条約　50ヵ国・地域が批准
令和3（2021）年1月22日の発効へ

10月24日（日本時間25日）、ホンジュラスが批准書を国連へ寄託したことが発表され、核兵器禁止条約の批准数が発効に必要な50ヵ国・地域に達しました。90日後の令和3年1月22日に発効します。

核兵器禁止条約は、平成29年7月7日に122ヵ国・地域の賛成によって採択されました。条約の前文には、被爆者や核実験による被爆者が受けた「容認しがたい苦しみ及び害」に留意すると明記され、核兵器の開発や実験、保有、使用、さらに核兵器による威嚇、他国の核兵器を自国に配備することなどを全面的に禁止する史上初めての国際条約です。

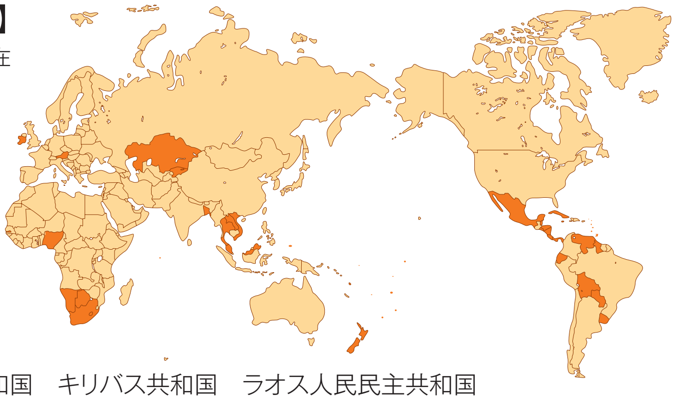
これまで全ての国・地域に対して条約批准などを求める署名活動を行ってきた被爆者たちは、平和公園で集会を開き、喜びの声を上げました。

また、長崎市役所前には発効までの日数をカウントダウンするボードが設置され、長崎市長らによって点灯式が行われました。長崎原爆資料館の入り口には横断幕が掲げられ、館内には発効日を広報する電子掲示板が設置されています。

日本政府はこの条約に参加しておらず、長崎市長や被爆者らは署名・批准を求めています。

【核兵器禁止条約　批准国・地域（批准・加盟日順）】

※令和2年12月4日現在



ガイアナ共和国　タイ王国　バチカン市国　メキシコ合衆国
キューバ共和国　パレスチナ　ベネズエラ・ボリバル共和国
パラオ共和国　オーストリア共和国　ベトナム社会主義共和国
コスタリカ共和国　ニカラグア共和国　ウルグアイ東方共和国
ニュージーランド　クック諸島　ガンビア共和国　サモア独立国
サンマリノ共和国　バヌアツ共和国　セントルシア
エルサルバドル共和国　南アフリカ共和国　パナマ共和国
セントビンセント及びグレナディーン諸島　ボリビア多民族国
カザフスタン共和国　エクアドル共和国　バングラデシュ人民共和国　キリバス共和国　ラオス人民民主共和国
モルディブ共和国　トリニダード・トバゴ共和国　ドミニカ国　アンティグア・バーブーダ　パラグアイ共和国　ナミビア共和国
ベリーズ　レソト王国　フィジー共和国　ボツワナ共和国　アイルランド　ナイジェリア連邦共和国　ニウエ
セントクリストファー・ネービス　マルタ共和国　マレーシア　ツバル　ジャマイカ　ナウル共和国　ホンジュラス共和国

全国×長崎 青少年ピースフォーラム オンラインでの開催

11月28日、「オンライン青少年ピースフォーラム」を開催しました。

毎年8月8・9日に全国から中高生らが長崎市に集まり、原爆等について学ぶ「青少年ピースフォーラム」ですが、今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、時期を変更し、オンラインでの開催となりました。

当日は長崎市の青少年ピースボランティアの他、千葉県浦安市、東京都港区など6自治体がオンラインで参加しました。継承部会長・池田道明氏の被爆体験講話、ピースボランティアによる原爆・現代の核問題等についてのプレゼンテーションの後、グループに分かれて「平和」に関する意見交換を行いました。

意見交換では、「平和とはどういう状態だと思うか」、「そのためには何をすべきか」などのテーマに沿って活発に意見を交わしました。それぞれが目指す「平和」な状態については、「空腹の時間がなく、安心して眠れる」、「やりたいことが自由にできる」をはじめ、教育・政治・身近な生活での幸福感など様々な意見が出ました。その「平和」を守る・実現するためには、「選挙に参加し政治に関心を持つ」、「SDGs（持続可能な開発目標）の達成を目指す」などが提案されました。

進行役を務めた青少年ピースボランティアからは、「対面で話せず寂しいが、オンラインだからこそのメリットも感じた」、「準備等が例年と異なり、不安も多かった。来年は長崎で会いたい」、「自分の考えと違う人も多く、これからも色々な意見を吸収したい」などの感想が寄せられました。

例年とは違った形での開催でしたが、「参加できてよかった」との声もいただきました。来年度は長崎市でお会いできることを楽しみにしています。

米国×日本 高校生らによるオンラインセミナー

9月20日、米国と日本を結んでのオンライン交流会を開催しました。

青少年平和交流事業（ハワイへの高校生派遣）の代替事業としての実施で、長崎の高校生、米国からスーザン・サザードさん、高校生が参加し、築城昭平さんの被爆体験講話やサザードさんの著書「ナガサキ―核戦争後の人生」などを基に「被爆体験から学ぶ平和」と題した交流会を行いました。

第二部のハワイ大学マツナガ平和研究所と米国の大学生らとの交流会では、真珠湾攻撃の体験者がその体験を話し、活発に意見を交換しました。

参加者からは「築城さんの話を聞いて、復活する力を感じた」、「海外の人と会話することは大事だ」などの他、「オンライン開催により「小さな町だがこうやって繋がることができてよかった。今後も対話を続けたい」との感想も聞かれました。

私たち デビュー しました！

**当協会では、多くのボランティアの方々が活動してくださっています。
新しく活動を始めた方に、なぜ活動してみようと思ったのか、聞いてみました。**

継承部会員
橋本　富太郎さん

【継承部会とは？】
被爆者が自らの被爆体験や平和への思いを「被爆体験講話」として、平和学習に取り組む方々にお話しします。

被爆75周年、希望の光が差し込んで来たこの年に、初めての被爆体験講話を行いました。

切っ掛けは実に単純、「橋本さん、被爆者でしょう。体験講話を始めませんか」と推進協会の事務局長さんから、一昨年の冬に、声が掛かったこと。「話せる記憶は無かですもん」と応じたが、「ご両親も被爆者でしょう。聴いたことを話して下さい」と説得され、深く考えることなく、引き受けました。

私は1歳11ケ月で被爆。記憶はありません。両親が記した体験記と身体に刻まれた病の連鎖と、山里小学校の卒業生としての体験を中心とし、現下の核を取り巻く状況を訴えています。

特に、本年は核兵器禁止条約が大きく動き出し、世界の意思が禁止に向きました。化学兵器禁止、地雷禁止と同様に進んでいけると良いと思います。

行動することが大事です。学んで進んで行動する。国は、戦争・原爆に学び、国民の苦しみと不安を払拭して欲しい。日本が世界のリーダーとなるチャンスです。

私は、強い決意があるわけではありません。長崎で生まれ、育った街が背負った事実を伝えたいと思っています。

平和案内人 第７期生
桝屋（ますや）　玲子（りょうこ）さん

【平和案内人とは？】
原爆資料館や追悼平和祈念館、周辺の被爆建造物等を案内します。第１期生は平成17年４月、第７期生は令和２年９月に活動開始。

子供の頃に来た原爆資料館はとても恐ろしい場所で、また行こうと思う場所ではありませんでした。私の平和活動というと、毎年8月9日11時2分にサイレンと同時に黙祷することぐらいでした。

そんな私が平和案内をしようと思ったきっかけは、NY旅行で国連を訪れた時、長崎に住んでいるのに何も知らなかったことがとてもショックだったからです。

アメリカ人ガイドの方に長崎で被爆した聖アグネス像を紹介され、さらに、このガイドの方が原爆について説明するとき、ずっと「長崎・広島」と、長崎を先におっしゃっていて、普段なんとなく、広島・長崎のイメージだったので、気になってたずねると、「長崎が最後の被爆地だから」とおっしゃいました。

帰国後、私に出来ることをしないといけないと決心し、平和案内人育成講座を受講して、現在にいたります。

私自身、戦争や原爆の本当の恐ろしさはわかりません。先輩方のように言葉の重みも違うけど、今後も勉強しながら、「微力だけど無力じゃない」と信じて多くの人へ平和の尊さを伝えるお手伝いができたらと思っています。

家族・交流証言者
上妻（こうづま）　裕子（ゆうこ）さん

今後証言を伝えていく上で二つのことを主に大事にしたい。

一つは原稿について、これは当時の情報を多く集め、更新していくことにあたる。二つ目は人の感情に寄り添うこと、これは被爆者の想いを汲み取った表現や聞き手の表情を見ながら講話していくことにあたる。

これらを大事にすれば、より聞き手も原爆の事により興味を持ってもらえると考えたからだ。

被爆者の方々の減少で、原爆当時の記憶の風化問題はよく取り上げられる。その甲斐あって後継者は増えつつある。だが、単に原爆の歴史と証言を伝えていくだけでは聞き手には事実しか伝わらないと考える。

だから、後継者の一人として、私はこれからも原爆のことや大切さを学ぶ姿勢を常に持ちたい。そのうえで上の二つのことを実行し、聞き手の一人でも多く、戦争や原爆についてより深く考えるきっかけを提供出来たら、と思う。今思っている以外にも、今後様々な場で講話していく中で見直すことはあるだろう。その度に見直し、より良い講話を行いたい。

【家族・交流証言者とは？】
被爆体験の継承者として、被爆者から直接被爆体験を聞き取り、その体験や平和への思いを語り継ぎます。

青少年ピースボランティア
谷口　史弥さん

原爆投下から75年が経過した現在でも、祖父母が原爆手帳を手に通院する姿を見た時、原爆の問題は終わっていないのだと強く感じます。私が参加した主な活動は、平和祈念式典のサポート、国際平和デーオンラインイベントでの通訳、ハワイ大学との合同セッション、オンラインピースフォーラムや九州大学での原爆展の企画・運営です。

今年は新型コロナの影響で、被爆者の方々による被爆体験講話の機会が激減しました。しかし、被爆者の方々は、過去を思い出す辛さをそっと押し殺し、私たち若い世代のためオンラインで被爆体験を語ってくださいました。感謝と尊敬の気持ちでいっぱいです。私は、それを国内外の多くの方に知ってほしいという一心で活動に参加しました。

私たちに出来ることは、過去の事実を語り継ぎ、二度と同じことを繰り返さないこと。私は就職を機に九州を離れます。「核のない世の中にせんば」という祖父母の言葉を思い出し、長崎で見たこと・感じたこと・学んだことを発信し続け、「平和」実現に向けて多くの人の行動に影響を与えたいです。

【ピースボランティアとは？】
15～30歳の若者が原爆・戦争や平和について学ぶグループです。8月の青少年ピースフォーラムではホストを務めます。

被爆体験を語り継ぐ
永遠の会　第２期生
濵崎　利津子さん

小学生の頃から、平和教育を身近に受け、被爆者の講話なども聴く機会がありました。８月９日を迎えるたびに、私にも何か出来ないかとずっと思っていました。

長崎新聞に２期生募集の記事が載ったのを機に、永遠の会に入り半年の研修。平和祈念館のこと、黒本、派遣のことなど知らなかったことも多く、毎回が勉強でした。朗読の練習も先生方のご指導で基本的なことから学び、１期生からもアドバイスを貰って定期朗読会にも参加できました。みんなで頑張り、達成感を得ることができました。

そして常駐の場で、初めて来館者に朗読を聴いてもらった時はドキドキしましたが、来館者も真剣に聴いて下さり、心を込めて伝えられたと思います。

常駐当番も回を重ねるごとに、落ち着いて読むことが出来てきました。

今はコロナ禍で、いろいろ制約があり、私達の活動もなかなか思うようにできない状態です。

それでも、被爆者が書かれた体験文の朗読を、一人でも多くの方に聴いていただき、これからもずっと平和を願う思いを伝えていきたいと思います。

【永遠の会とは？】
被爆体験記等を朗読することで、被爆の実相や平和への願いを伝えます。第１期生は平成26年度、第2期生は令和元年度に活動開始。

被爆75周年事業

被爆者証言ビデオ

被爆75周年事業の一環として、継承部会員（被爆者）による証言ビデオを作成しました。

これまでにも被爆体験を聞き取った映像は作成していますが、今回は部会員自らが被爆した場所や当時の自宅周辺などを訪れ、被爆前の生活や被爆直後の様子、家族の話、被爆後の暮らしなどについて、その場で語っています。

この映像は、今後、継承部会員による被爆体験講話が急遽実施できなくなった場合の代替案として活用する予定です。被爆者の高齢化が進む中、どのように被爆体験を継承していくか、これからも方法を模索していきます。

第５回 被爆体験の深化講座

「強制疎開のお話」

11月1日、継承部会・継承交流班主催の「被爆体験の深化講座―強制疎開のお話」を開催しました。自宅やその周辺が建物疎開地域となった三瀬清一朗さん、田川博康さんが、少しずつ変化した町の様子や、当時の状況などを話しました。また参加者からは、建物を取り壊す作業に参加した体験談や、転居先として城山地区を紹介した結果、児童を亡くしたことを後悔し続けた姉の思い出が語られた他、強制疎開に対する政府の保証や転居先の住居の紹介などについて、質問が相次ぎました。

次回は2月13日、「空襲と防空壕」をテーマに開催する予定です。

家族・交流証言事業研修会

「被爆体験と戦時中の食生活について」

11月29日、被爆者で料理研究家の脇山順子氏による研修会「被爆体験と戦時中の食生活について」を実施し、家族・交流証言者の他、平和案内人、市民ら約100人が参加しました。

脇山氏は、「野菜は色や味が今とは違う」「雑炊の米は数粒程度で、大事に噛んで食べた」「うどんを分ける時は、5人兄弟の一番上が5本、次が4本、3本…とした」など、再現料理の写真を見せながら話されました。参加者からは、「日の丸弁当を実際に学校に持って行ったのか」「戦時中の食生活をテーマにしたお話は貴重でわかりやすかった」などの質問や感想が次々と寄せられました。

国連軍縮週間（10月24日～30日）

市民のつどい

10月24日、原爆資料館階段下広場で「市民のつどい」を開催しました。

今回は新型コロナウイルス感染症予防のため、戦時食や綿菓子・ポップコーンコーナーなどを中止し、被爆写真展示の他、Ｉｎｓｔａｇｒａｍ企画紹介や県外原爆展の解説等の動画上映など、展示企画が中心となりました。

また協会コーナーでは、「市民大行進宣言」の提示や協会ＳＮＳのＱＲコード登録によるプレゼント提供など、初めての試みにも取り組みました。継承部会など4部会の企画参加がなく、例年よりは参加者も少なかったものの、皆さんの平和への思いを感じられる一日となりました。

来訪者コーナー

映画監督
川瀬　美香さん

映画「長崎の郵便配達」は、谷口稜曄さん（2017年逝去）をモデルとして書かれた「ナガサキの郵便配達」の著者のピーター・タウンゼントさん（1995年逝去）の娘、イザベルさんを中心として制作されたドキュメンタリー映画です。11月上旬、監督を務めた川瀬美香さんが長崎を訪れた際、当協会にもお越しいただきました。

映画は父・ピーターさんと谷口さんの“国や立場の違いを超えた友情”を、娘のイザベルさんが現代に紐解く物語となっています。

2020年夏の公開を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、延期となりました。現在、2021年夏の公開に向けて調整中とのことです。

原爆展のお知らせ

※新型コロナウイルス感染症の感染状況次第では、規模縮小または中止する場合があります。

九州大学での原爆展

●写真・資料等展示

日　　時：令和３年１月21日（木）～１月26日（火）10:00 ～ 15:00
　　　　※ただし26日（火）は12:00まで

会　　場：九州大学　伊都キャンパス
　　　　（日本ジョナサン・KS・チョイ文化館　中山ホール）

●被爆体験講話会　オンラインプログラム

日　　時：令和３年１月23日（土）18:30 ～ 20:00

内　　容：被爆体験講話、青少年ピースボランティアによる展示会紹介

講 話 者：継承部会員　山脇佳朗氏　※英語での実施です

視聴方法：九州大学、長崎県、当協会ウェブサイトでご紹介する予定です

【お問い合わせ先】長崎平和推進協会　☎095-844-9922

海外原爆展（オランダ）

（シーボルトハウス提供）

日　　程：9月25日（金）～令和３年２月14日（日）

会　　場：日本博物館シーボルトハウス
　　　　（オランダ・ライデン市）

内　　容：広島・長崎原爆に関する
　　　　写真パネルや被爆者証言映像等の展示

【お問い合わせ先】追悼平和祈念館　☎095-814-0055

県外原爆展　解説動画

県外原爆展で展示する写真パネルを、当協会の写真資料調査部会長の松田斉氏が分かりやすく解説しています。

視聴方法：YouTubeチャンネル「長崎平和推進協会」
　　　　または協会ウェブサイトからご覧ください

【お問い合わせ先】長崎平和推進協会　☎095-844-9922

NO.15　Peace Wing Nagasaki 会員の広場

被爆70年は広島でむかえました。その後、当時のオバマ大統領の広島訪問にも立ち会いました。長崎での勤務が決まったとき、なにかの縁を感じたのを覚えています。

被爆75年は、新型コロナウイルスの感染拡大が続くなかでも、一年を通じて被爆にまつわるさまざまなニュースや番組を送り出すことができました。核兵器禁止条約が発効することになり、長崎の声を伝え続ける責任の重さをあらためて感じています。

現場で取材にあたっているのは、戦争を知らない若者たちです。ひとつひとつの取材は、平和の大切さへの気づきを得る機会となっています。これまで取材してきたことには向き合い続け、これまで語られてこなかったことには光をあてて、長崎から平和への願いを伝えていきます。

NHK長崎放送局　小出進

お便りをお寄せください！

平和推進協会では、会員の皆様よりお便りを募集します。会報をご覧になってのご意見、ご感想、お便りなど、会員の皆様の声をお寄せください。投稿いただいた声は、広報委員会を経て、「会員の広場」で会報「へいわ」に掲載させていただきます。投稿は300字以内でお願いします。また、匿名の投稿はご遠慮ください。

E-mail：info@peace-wing-n.or.jp
〒852-8117 長崎市平野町7-8
長崎平和推進協会「会員の広場」係

TOPICS! へいわトピックス

社会福祉法人 長崎市社会福祉協議会から、当協会が表彰されました

10月14日、令和2年度長崎市社会福祉協議会表彰式において、当協会が表彰され、横瀬昭幸理事長が馬場豊子会長より賞状を受け取りました。この賞は、長年にわたる福祉活動・ボランティア活動で福祉の増進に功績のあった個人・団体への謝意の表明、福祉活動の普及・推進を目的としており、協会は「永年にわたり被爆の体験や思いを受け継ぎ平和案内人を育成するなど次の世代へ平和を継承する活動に尽力」したとして、選ばれました。

当協会は今後も核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を目指し、活動を続けていきます。

会員特典が追加されました!

当協会の「会員特典」に、新しいサービスが追加されました。下記のお店で会員証をご提示いただくと、優待サービスを受けることができます。是非、ご利用ください。

●石窯工房AGRI（市役所前店、メルカ築町店）
元船石窯パン製造所ベッカライナガサキ
（長崎市元船町）
→パン10%オフ

●長崎の感動する中華料理店 寳來軒
（長崎市平野町 原爆資料館そば）
→デザート類の割引サービス

【お問い合わせ先】
長崎平和推進協会　☎095-844-9922

新商品のご紹介

オリジナル商品として、シリコン製リストバンドを作成しました。平和を願うメッセージを刻んでおり、本体色は青やピンクなど6色があります。当協会ウェブサイトの他、原爆資料館ミュージアムショップでも購入できます。

自分用やお土産に、是非どうぞ。

価　格：220円（税込）　※会員価格 税込198円
サイズ：Mサイズ（幅8mm×180mm）
　　　　Lサイズ（幅8mm×202mm）

【お問い合わせ先】
長崎平和推進協会　☎095-844-9922

※11月末発売予定だった「長崎原爆遺跡・慰霊碑　長崎の巡り歩き（仮）」は、令和3年1月末に販売延期となりました

世界の核弾頭の数

	ロシア	米　国	中　国	フランス	英　国	パキスタン	インド	イスラエル	北朝鮮	合計
2020年6月1日	～6,370	～5,800	320	290	195	～160	～150	80～90	～35	～13,410

長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）提供　http://www.recna.nagaski-u.ac.jp/

会員数報告

◎維持会員　1、032名
◎賛助会員　159名
◎学生会員　11名

令和2年12月10日現在

賛助会員（団体・法人）の一覧は協会ホームページに掲載しています。ご支援・ご協力誠にありがとうございます。

寄附者紹介

ありがとうございます

（敬称略）

◎山脇　佳朗　五万円
◎北城　祐二　二万七千円
◎天野　得子　一万円
◎川上　正徳　一万円
◎白鳥　純子　一万円
◎富永　大介　五千円
◎匿名（二件）　一万四千円

会費納入のお願い

当協会の活動は皆さまの会費に支えられています。

今年度まだ会費を納めていただいていない方は、何卒趣旨をご理解いただき、先にお送りしている払込票により最寄りの郵便局で納入くださいますようお願いいたします。

お支払いいただいた会費は、源泉所得税の税額控除の対象になります。詳しくは当協会ホームページをご覧いただくか、事務局までご連絡ください。

本紙は再生紙を使用しています。
令和2年12月24日発行

（公財）長崎平和推進協会　〒852-8117 長崎市平野町7-8　☎095-844-9922　FAX 095-844-9961